

# バルセロナ日本語で聖書を読む会

月報第 142 号 [2016 年 12 月]

## さあ、湖の向こう岸に渡ろう

ルカによる福音書 8 章 22 節

『そのころのある日のこと、イエスは弟子たちといっしょに舟に乗り、「さあ、湖の向こう岸へ渡ろう。」と言われた。それで弟子たちは舟を出した。』

+...+

主の聖名を賛美します。 今月は(も、と言う方が適格かもしれませんが)また欧州域内で痛ましい無差別殺戮事件があり、クリスマスの前に大きな悲しみに包まれました。ベルリンの皆様には心からお見舞い申し上げます。

さて、バルセロナ日本語で聖書を読む会の月報第 142 号をお送りします。今月はバルセロナでご活躍の北島伝道師を集会にお招きしてクリスマスのメッセージをお取次ぎいただきました。要約をお届けします。



神の子イエスの生まれる日、母マリアは泊めてもらえる部屋を与えられず、馬小屋という非常識な場所で誰の助けも得られずに生まれ、異臭ただよう極めて不衛生な飼料葉おけに寝かされました。この飼料葉おけに生まれたキリストについて考えてみましょう

**1: 私たちの罪を贖うために来られた。** イエスはここで生まれてから 33 年後に木にかけられて命を絶つことになりますが、聖書には「木にかけられる者は呪われる」と書いてあります。それは、普段神様のことを「アバ、父よ」と呼んでいたイエスが、十字架にかけられた時だけ「エリ、神よ」と呼ぶことに象徴されています。出生時に部屋を与えられなかった彼は、伝道人の間も居場所のない思いを味わい続けました。このような、神を見つめず身勝手な生き方をする罪深い人間の罪をうけ負うために飼料葉おけで生まれたイエスは、現在でも孤独の極みにある人の気持ちに寄り添われます。(ヘブル 4 章 15-16)

**2: 私たちの理解者として来られた。** キリストはこの世で罪以外のすべての人間の生活を体験された、私たちの理解者。だからこそキリスト誕生の最初の知らせは、社会の最底辺にいた羊飼いに届けられ、彼らがまず主に会ったのでした。私たちがまた、主に会おう恵みを受けた者たちです。

**3: この世は、創造者である神の御子を受け入れなかった。** この世の人はイエスの誕生に冷たかった(ヨハネ福音書 1 章 10-11 節)。ベツレヘムの人が示した無関心はしかし、現在でも同じです。私たちはキリストのために割く時間が無い。私たちの心の中の最良の部屋にお入りいただくべきイエスを、私たちは迎え入れないばかりか、家畜小屋へと追いやっているのではないのでしょうか。

**4: この世は、キリストを信じるものにも冷たい。** イエス誕生の日、「この世(=私達)はキリストのみではなく、キリストと共にいる人々にも冷たかった。現在、私達が隣にいる人に「今日、教会に行ってみませんか」と誘ったり、受洗の決意を語ったりすると、まずその返答は冷たい。このような状況の中、どれだけの人が イザヤ書 41:10 (月報の最終頁)、マタイ 28:20 (わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる) のみ言葉に励まされてきたことでしょうか。

### 5: キリストを受け入れた人には天国が用意されている

心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、私をも信じなさい。私の父の家には住むところがたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻ってきて、あなたがたを私のもとに迎える。こうして、私のいる所に、あなたがたもいることになる。(ヨハネ 14:1-3 新共同訳)

どうして、キリストに従う人はこの世では冷たくされても素晴らしい永遠の天国があるのでしょうか。その私達のためにキリストが天から降り、主を信じる者のためにも、また信じない者のためにも、全ての人の代価を 2000 年前に十字架にかかって払ってくださったからです。だから私たちは救われるために、何かをする必要は全くありません。ただ自分が神に背を向けている罪人であることを認め、悔い改めてキリストの十字架の事実を認め、主を個人的に心には迎え入れるだけで良いのです。この主を私達は心の中でも最も良い部屋にお迎えしようではありませんか

北島嗣郎 伝道師